目黒と気仙沼の絆

さんままつりは16年前、現・気仙沼実行委員会の松井会長さんが魚食文化普及のためにはじめたものでしたが、今では毎年9月に行われる目黒区民まつりの恒例行事になりました。気仙沼から届けられる大量のさんまと一緒に大勢のボランティアの方々が夜行バスでかけつけ、祭を盛り上げてくれます。目黒区のボランティアと友人になる気仙沼の方々も多く、毎年顔を会わせるのも楽しみの一つだと言います。

気仙沼写真提供：梅津 覚太郎さん

復興の願いを込めてサンマ漁へ出漁

修理復旧のため吊り上げられるサンマ漁船

サンマの水揚げ。このサンマをめぐろで焼いている

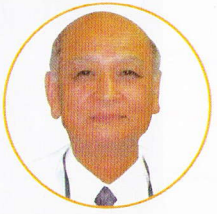
気仙沼市魚市場。機械が被災したため手作業で箱詰め

目黒区民まつり実行委員会

事務局長 小泉一さん

さんままつりでは常に全員が楽しめることを考えています。これは実際にやってみると、とても大変なことです。また気仙沼の方々とは10年以上のお付き合いですが、彼らの“おもてなしの心”にはいつも感心させられてしまいます。

ボランティアというものは、人生においてすごく大切な経験です。中高生の皆さんにはこれから様々なことにチャレンジしていってほしいですね。また、ぜひ一度さんままつりへいらしてほしいです。



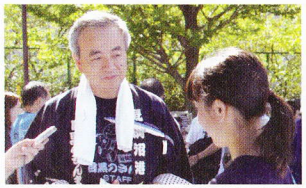
実行委員長 嶋野 隆夫さん

さんままつりでは、来場者の皆さんがおいしそうにさんまを食べているのを見ると嬉しいですね。またボランティアの方々も楽しそうに働いています。

そして今回は一番のテーマとして“復興支援”を掲げていました。今までお世話になってきた気仙沼がこのように被災してしまい、おまつりをやるのはどうかとも思いました。しかし、復興への第一歩として大きな意味を持つのではないかとも感じ、開催に踏み切りました。問題点は多く直前になっても、まだまだどうなるか分からないことがたくさんありました。

例年とは違う温かさを感じます。
今回は復興への第一歩となりました。
こんなに多くの人に支えられていることを
忘れずに、前向きにやっていきたいです。
気仙沼は魚の町です。
これから頑張っていきますから、
どうかその姿をしっかり見てください。

松井気仙沼実行委員会会長



同級生どうしで作っていたのが
はじまりです。本来は非売品でしたが、
人気があったし震災のこともあり、
販売することにしました。
目黒区へのイメージ→親切

手づくりモチーフ販売：須田さん、手塚さん

半年後にこのおまつりを開催できて
感無量です。多くの被害を受けましたが、
今回の開催は復興への第一歩となったと
思います。犠牲になった仲間のことを想い、
一匹でも多くさんまを届けたい。
そして笑顔をみたいです。
これからも頑張っていきます。
みなさん、今まで心配してくれて
ありがとう。

菅原気仙沼市長

ずっと不安でしたが、無事にこの日を
迎えることができて感激しています。
気仙沼の方々の中には懐かしい
顔ぶれも見られます。
開催の背景には様々なことがありましたが、
前向きな気持ちでここまで
来られたのだと思っています。

小泉事務局長

今回のおまつりは、目黒区の支援の
おかげで開催できたのだと思います。
半年後に開催できるとは
本当に奇跡みたいです。
感謝しています。

募金活動中のお二人：尾形さん、夏谷さん

気仙沼は魚が命。
こうしておまつりを迎えることができて、
本当によかったです。
運営側でも、幅広い
年齢層の人が参加してくれました。
感謝しています。

嶋野実行委員長

初めて参加しました。
想像以上に盛り上がっていて驚きました。
少しでも気仙沼の方々の役に立てれば、
と思っています。

ボランティア：篠沢さん

中二のときに参加したことが
あって、今回で二回目になります。
小さいころから親しんできた
おまつりです。
気仙沼には感謝の気持ちで
いっぱいです。

ボランティア：高校一年生

今年で参加7回目になります。
今年は震災のことがあったので、
いつもとは違う気持ちで
取り組んでいます。

ボランティア：加藤さん

気仙沼：イエロー
目黒区：ピンク

撮影：黒木 健

～取材を終えて～

最初にこの企画を発表したときは本当に不安でいっぱいでした。今回の被災は深刻でデリケートな問題だったので、果たして自分がうまく向き合っていくことができるか自信がありませんでした。

取材がスタートしてからは編集員の皆さんがたくさんの協力をしてくれました。私の代わりに事前会議に出席してくれたり、写真を撮ってくれたり：これまでになない総勢8人による取材では、一人ひとりが積極的に役割を引き受けてくれて、自然と編集員どうしの距離が縮まったように感じました。

当日も開催者側の多くの人々の助け合いや思いやりに触れて、人の絆や支え合うことの大切さを実感できたと思います。一人ひとりの編集員が大変だったと思いますし、また取材させていただいた方々にもいろいろとご迷惑をおかけしたとは思いますが、本当に良い経験をさせていただきました。

最後にインタビューに協力してくださった方々、幾度もの取材に丁寧に対応してくださった関係者の皆様、そして一緒に頑張ってくれた編集員に感謝します。